

【事業名】 沖縄県内に生育するキバナシュスラン、コウシュンシュスラン、ナンバンカモメランの生息域外保全
(沖縄県国頭村、石垣市、竹富町) 【団体名】 一般財団法人沖縄美ら島財団

事業の背景・目的

・国内希少野生動植物種であるキバナシュスラン、コウシュンシュスラン、ナンバンカモメランは、沖縄県でも生育数が少なく、その保全が急がれる種群である。これら3種は、開花後のシュートや古い地下茎が枯れる性質などが共通しており、これらを生息域外保全株のファウンダーとして使用することで自生地個体群への影響を最小限に抑えつつ、多様な系統を保持した生息域外保全を目的に本事業を実施した。



キバナシュスラン (左:全体、右:花拡大)

事業の内容

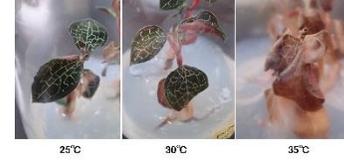
・上記3種の生育状況調査を実施し、生息域外保全株の確保に努める。またモニタリング調査を実施し、採取した株が枯死していないか確認を行った。すでに培養苗がある種類については、培養温度試験を実施した。さらに保全を進めるための普及啓発活動を行なった。

事業① 生育状況調査等事業

- ・生育地での調査 (個体数、開花、結実、食害など)
- ・開花シュート採取後の動態の確認
- ・自生地の探索

事業②、③ 生息域外保全株確保事業、培養温度検討事業

- ・シュート等を用いた増殖手法の確立
- ・種子を用いた無菌培養
- ・培養温度の試験



キバナシュスランの培養温度試験の様子

事業④ 普及啓発

- ・普及啓発ルーツの作成と配布
- ・保全の注意喚起を行う展示

得られた成果

- ・ファウンダー確保のため部分採取した株のモニタリングを行い、枯死せずに生育している様子が確認された。
- ・コウシュンシュスランについて、イノシシによる掘り起こしで自生地が消失したと思われたが、少し離れた地点で再発生を確認した。
- ・ナンバンカモメランのファウンダーを新たに11個体確保した。
- ・生息域外保全株について、半密閉栽培により全個体の活着に成功した。また、開花結実に向け、健全な成長が認められた。
- ・危険分散を目的に、国立科学博物館筑波実験植物園に増殖に成功した3種各1個体を譲渡した。
- ・キバナシュスラン (石垣島産) について、異なる温度条件で培養を行った結果、30°C以上で障害が生じた (耐暑性に関する限界温度は30°C以下であると推察された)。
- ・キバナシュスランの培養増殖株を保全に絡めて展示した。
- ・3種の保全をPRする普及啓発ツール (クリアファイル) を作成した。